

第十一軍司令部略歴

陸軍中將 笠原幸雄

年月日	概要
昭三、七、一	編成完結の状況 軍司令官、陸軍中將岡村寧次以下東京都牛込区陸軍予科士官学校に集合し、其編成を完結す 爾后数次の改編を至て終戦時に至る 行動の概要
一三七、九	守呂港出発
一三七、二四	南京に上陸す
自三三七、一五 至三三二、一一	九江黄梅攻畧戦及武漢攻畧戦に参加
自三三九、三九 至三五三、一七	南昌攻畧戦襄東会戦贛湘会戦及十四年冬季作戦に参加
自三三〇、四一 至三五三、一〇	宜昌作戦漢水作戦に参加
自三三三、一三 至三七、一、一六	予南作戦、江北作戦、第一次長沙作戦及第二次長沙作戦に参加
自三三〇、四一 至三七、一、一〇	浙贛作戦及大别山作戦に参加

年月日	概	要
自昭和一八三 至一九一〇	江北作戦、江南作戦及清徳作戦に参加	
自一九四九 至一九三九	湘桂作戦に作戦	
自三〇、三、三五 至三〇、八、一四	都安作戦及湘桂及藍作戦に作戦	
二〇、八、一四	停戦詔書発布	
二〇、八、三〇	復員下令	
三〇、五、	江西省九江に集結	
二一、五、三〇	九江出發	
二一、六、三	上海に集結	
二一、六、一六	内地帰還の爲逐次上海を出發し後尾を以て	
二一、七、三〇	浦賀港に上陸す	
二一、七、三〇	迄に僅少の一部残置人員を除き復員茲に軍司令部解散す	
二一、八、八	復員完結	
	兵力	
	部隊復員時に於ける状況次の如し	
	编制定員	七三五名
	縮減時充足人員	七一七名

(2)

0511

昭二一、二、十四	補充人員	八六三名
二一、三、一〇	転入人員	一三一名
二一、三、一三	死没人員	六三名
二一、三、一四	現地除隊人員	一〇七名
	処刑人員	六名（拘禁所入所兵の転入とす）
	現地残置人員	三九名
	生死不明人員	一九名
	入院者人員	一一七名
	内地帰還人員	一一一八名
	（本人員は昭一九、四、編成改正時を基礎とす）	
	部隊略歴	
	*十一軍司令部准陸軍法務曹長牧田正雄は恩赦業務喫要員として支那派遣軍復員本部に派遣を命ぜられ	
	九江出発	
	上海港乗船、船中異状なく	
	博多港に上陸直ちに支那派遣軍九州連絡所に至り執務中	
	現役満期除隊となり帰郷せり	
	陸軍法務曹長	牧田正雄

(3)

0512

年月日	概要
昭三、六、一七	部隊略歴
昭三、六、一七	*十一軍司令部(オ一梯団)
昭三、六、一八	一、*十一軍司令部オ一梯団として内地帰還を命ぜらる
昭三、七、二二	二、輸送指揮官オ十一軍副官陸軍少佐田上吉隆以下將校四五名、准士官一名
昭三、七、二二	下士官一六名、兵四一六名、軍医一九二名、計七九〇名
昭三、七、二四	上海港出帆(船名ウイリアムキーマV〇〇八)
昭三、七、二四	浦賀港上陸
備考	一、夫々予備役編入、除隊、召集解除、復官退職、解雇
將校一八	二、兵力將校四四名、准士官二名、下士官一三五名、兵四一六名、軍医一九二名、計七八八名
昭三、六、二九	夫々浦賀検疫所病院に入院同日召集解除
昭三、七、六	下士官一八
部隊行動の概要	*十一軍司令部
昭三、三	長 主計大尉 吉 年 祐 一
財産関係整理要員として吉年大尉以下四名、漢口*大方面軍司令部に出頭を命ぜられ九江出發	

ノ 外 中上軍司令部

<p>四、二四</p>	<p>漢口六方面軍司令部到着</p>
<p>三、二四</p>	<p>六方面軍財産関係整理要員と同行、福岡県二日市支派、派遣軍復員本部に出頭、の為漢口出発</p>
<p>三、三〇</p>	<p>南京着</p>
<p>四、二</p>	<p>上海到着す</p>
<p>四、一八</p>	<p>上海に於て同行の陸軍技手高橋龍助、熱帯マリアピの為入院す。六十一軍上海連絡所に入院者の事を托す</p>
<p>四、二〇</p>	<p>駆潜艇六四十七号に乘船、上海港同上出帆す</p>
<p>四、二四</p>	<p>博多港に上陸す</p>
<p>四、二五</p>	<p>吉年大尉以下三名、二日市復員本部に到り財産関係整理事務処理に任じ</p>
<p>四、三〇</p>	<p>任務終了帰郷す</p>
<p>部隊行動概要</p>	
<p>六十一軍司令部</p>	
<p>軍管 戸 田 俊 男</p>	
<p>内地帰還の為</p>	
<p>四、三〇</p>	<p>上海連絡所勤務を解かれ同日駆潜六四七号に乘船同日上海港出港輸送指揮官六</p>
<p>六方面竹本建技中佐</p>	
<p>四、二四</p>	<p>博多に上陸す</p>

(5)

0514

年月日	概
要	<p>野戦郵便隊略歴</p> <p>一 部隊名 第十一軍野戦郵便隊</p> <p>二 部隊長官氏名 通信寺務官 岩代實太郎</p> <p>三 縮成完結状況 武漢防衛軍新設と同時に縮成され中華民國漢口市に本部を置き全軍管下ノ野戦郵便業務を掌握す          当時縮成 本部一、郵便局二三、分会局四</p> <p>五 行動の概況及其の年月日          武漢防衛軍は第十一軍と改編せられ当郵便隊も亦同日附を以て同軍に編入せられ第十一軍野戦郵便隊と改称す          当時の縮成 本部一、郵便局二三、分会局五          第六方面軍新設に伴い当隊員は同軍に配属せられ更に第十一軍指揮下に入る          管下に郵便局分局一を増設す          管下の郵便局一を廃止す          管下の郵便局分局一を廃止す          管下の郵便局分局一を廃止す          管下の郵便局分局一を増設す          第十一軍前進し第十一軍の漢口進駐に伴い当隊は全軍の指揮下に入り第十一軍野戦郵便隊と改称従前業務を統行す</p>
	<p>昭一九六〇</p> <p>一九六四</p> <p>一九九一</p> <p>一九九二</p> <p>二〇六五</p> <p>二〇六三〇</p> <p>二〇七一</p> <p>二〇九一</p>

<p>二〇、九、二六 二〇、九、三</p>	<p>当時の編成、本部一、郵便局三一、全分局五 才十一軍の九江地区移駐に伴い当隊は才六方面軍の指揮下に入る 管下の郵便局に及全分局一は、桜集団に編入さる 当時の編成、本部一、郵便局一九、全分局四 武漢地区に集結せる野兵の便を図る為野戦郵便局を増設業務終了と全時に逐次 之を廃止す</p>
<p>二〇、一〇、一 二〇、一一、三〇</p>	<p>前線各地の兵力揚上げに伴い其の他設置の野戦郵便局並に全分局を逐次閉鎖し 武漢地区に集結す</p>
<p>二〇、八、一五 二一、二、二〇</p>	<p>隊員中通信事務局酒多茂久蔵以下百五十六名は内地帰郷の為漢口出発</p>
<p>二一、三、二六 二一、五、八</p>	<p>右酒多事務官以下博多に上陸 郵便隊長以下百九十一名内地帰郷の為漢口出発</p>
<p>二一、五、七 二一、六、一</p>	<p>右郵便長以下鹿兒島に上陸 六、部隊長異動</p>
<p>二〇、七、三三 全</p>	<p>郵便長通信事務官山本興吉は内地帰郷を命ぜらる 通信事務官若代實太郎郵便長被命今日に至る 七、兵力 四七四名</p>
<p>内 訳 死 没 者 残 留 者</p>	<p>帰 還 者 三 四 七 名 二 九 名 一 七 名</p>

年月日	概	要
昭三二、三、一四	<p>部 隊 昇 歴</p> <p>十一野戦郵便隊の十一部</p> <p>十一野戦郵便隊が百四十八野戦郵便局員通信書記補薩摩吉郎及雇員井上稔師は軍事郵便為替貯金関係書類証執書の熊本貯金支局への章領を命ぜられ、九江出發</p>	<p>入院者 二〇名</p> <p>生死不明 一名</p> <p>転屈者 三五名</p> <p>現地解除者 二五名</p>
二、三、一〇	<p>上海港乗船中異状なく</p>	
二、三、一三	<p>博多港に上陸直ちに支那派遣軍九州連絡所に至り軍に命を受け書類を熊本貯金支局に護送したる後</p>	
二、三、一五	<p>従軍を解除せられ夫々帰郷せり</p>	<p>通信書記補 薩 摩 吉 郎以下二名</p>
一 局	<p>郵便局略歴</p>	<p>十一野戦郵便局</p>

(5)

0517



昭一九、六、一〇	二 局長氏名 高幹文官(七七等)井上由一
一九七、二四	三 部隊編成完結の状況 詳かならず
二〇、九、一	四 行動の概要
二〇、九、一三	武漢防衛軍の指揮に下る
二〇、九、一三	才三十四軍に配属
二〇、一〇、二五	江西省安義果安義に在りて郵便業務に従事
二〇、六、一六	才十一軍に編入
二〇、六、二三	引続き安義に在りて任務に従事
	独立歩兵才七旅団に配属
	安義より江西省南昌果牛行に移動同地に在りて復員の為の郵便業務に従事
	江西省新建果果成鎮に移動
	同地に在りて復員業務に従事
	内地帰還の為上海港出発
	博多港上陸
	同日判任文官以上本属復帰準備人は同日附解任(備)
	五、復員時に於ける兵力
	内地帰還、局長以下七名(全員とす)他に現地除隊入院其の他の事故なし
	六、本局の復員管理官(官)氏名
	独立歩兵旅団長 生 田 寅 雄

年月日	概要
昭三、一一	<p>戦史資料調査</p> <p>部 隊 名 才十一軍郵便隊</p> <p>部隊長階級氏名 高等官五等四級 岩代 廣太 郎</p> <p>部隊復歴の概要</p> <p>上海南京方面の陥落後向もなく武漢地区の攻略なるに従い郵便本部も九江武昌に一時置きしも恒久的に漢口に移り茲に才十一軍郵便隊誕生し次頃の通隸原部隊変遷に伴い基の名称も屢次改称を見たり、編成は本部一郵便局二十二局同分荷田なりき</p> <p>指揮隸属関係及び其の他変遷概要</p>
自一三、一一 至一九、六、	才十一軍野戦郵便隊
一九、六、一〇	武漢防衛軍野戦郵便隊
自一九、六、三三 至一九、八、三一	才三十四軍野戦郵便隊
自二〇、九、一 至二〇、一〇、三二	才十一軍野戦郵便隊
	<p>参加せる主要なる作戦々闘の概要、死傷、損耗</p> <p>武漢作戦、常德作戦、湘桂作戦に従い砲煙消えやりの裡に速早く野戦局を設営</p>

3 内 才十一軍司令部

し郵便物の受取護送及用局要員の異動中数名の死傷ありし外大なる損耗なかり  
き

給養 衛生

局員健少の二三の局を除き主食調味品は教日分副食は現品又は代金日々の分を  
担任、補給部隊より夫々交付を受け自隊炊事を為し居たり清潔栄養本位を探り  
隊員の健康状態は至極順調に維持せり

終戦より帰還までの行動の概要

路三、九

郵便本部統集団司令部内に移動

二〇、一三

前戦地区隊員武官及漢口郊外揚子地区集結

二一、三

本部以下全隊員（除九江方面四局）揚子集結

二一、五  
二一、六

漢口南京船便南京上海間鉄路便上海崑崙島間海防艦ヲ二一五にて輸送せらる

其他部隊の経歴中特異と認めたる事項

二〇、九、一

オ三十四軍前進しオ十一軍は漢口に進駐し之に伴い当隊は再び同軍の指揮下に  
入りオ十一軍野戦郵便隊と改称せり。然るに終戦後オ十一軍は九江地区に移駐  
するに及び同方面四局は同軍司令部直轄となりしに下拘当隊は武漢地区に止り  
オ六方面軍の指揮下に入りオ十一軍郵隊と称する点なり

備考

「本調査は独立部隊以上調査し復員本部出張所へ各一部提出するきものとす

(11)

0520

才五十八師司令部略歴

年月日	概	要
昭一七、三、三	一、軍令陸甲才八号才五十八師團編成下令	
一七、三、三	一、才五十八師司令部編成業務着	
一七、三、三	漢口編成完結	
	又、師団長陸軍中將下野一璽以下將校二十九名、下士官四十三名、兵六十八名	
一七、三、三	一、中華民國湖北省沔陽縣城へ移駐	
自一七、四、一 至一七、五、一	一、沔陽作戦に参加	
	一、死没者なし	
自一八、四、一 至一八、五、一	一、江北殲滅作戦に参加	
	一、死没者なし	
一八、六、一	一、才二次南部大洪山附近の作戦へ参加	
	一、死没者なし	
一八、三、一	一、師団長交代陸軍中將毛利末広	
一九、三、一	一、司令部増加配属として將校十二名、下士官二十九名、兵二百五十五名補充す	





昭三、五、三九

鹿兒島入港

三、六、三

上等兵墜園義則

湿性胸膜炎のため鹿兒島国立病院入院

三、六、一〇

鹿兒島上陸

入院上陸地に於て一名、生死不明、死亡者なし、

准士官一、下士官二、兵六九、計七二（入院一を含む）

才五十八師団歩兵才五十一旅団司令部略歴

旅団長 陸軍少將 提不夾貴

年月日	概	要
昭一七、三、二八	軍令陸甲才八号に依り縮成完結	
一七、七、一	旅団長 陸軍少將提不夾貴以下將校八名、下士官二四名、兵一三二名、軍医四名、計一五八名、馬匹一八頭	
一七、七、一	縮成地 中華民國湖北省天门景皂市	
一七、七、一	旅団長 陸軍少將 野溝式彦	
一七、七、一	中華民國湖北省天门景皂市附近の警備	
一七、七、一	此の尙左記戦闘に参加	
一七、七、一	汚陽作戦（一部配属）	
一七、七、一	師団北正面の戦闘	
一七、七、一	京山北方地区の戦闘	
一七、七、一	南部大洪山附近の作戦	
一七、七、一	江北殲滅作戦	





独立歩兵才九十二大隊略歴

大隊長 陸軍中佐 飯塚文三

年月日	概	要
昭一七、三、三	軍令陸甲才八号独立歩兵才九十二大隊縮成下令	
一七、三、三	大隊縮成事務着手	
一七、三、八	縮成完結	
	大隊長 陸軍中佐飯塚文三以下將校四五、准士官一五、下士官一三四、兵一二五一	
	湖北省京山県宋家鎮附近警備のため同地に連駐	
	沔陽作戦参加	
自一七、五、四	江北殲滅作戦参加	
自一八、四、三	才二次南部大洪山附近の作戦参加	
一八、六	大隊長交代 陸軍中佐 柴野煇彦知	
一八、八	内地交代返還 下士官、兵三二五名	
	縮成後才一回補充兵、下士官、兵三四〇名	
一九、三	陸軍換附才七十九号により將校、下士官、兵、二五名補充	
一九、四	大隊長交代 陸軍少佐 横井利秋	
自一九、五、三	湘桂作戦参加（長沙、衡陽、全景、桂林作戦）	

昭一九七	補充要員三四〇名到着於湘鄉
一九二二	補充要員將校以下二四〇名
二〇一八	本西有蘇浦景に移駐、同地附近醫備
二〇二五	將校五、兵九六、補充へ兵、朝鮮会寧より
二〇三三	將校三、兵八四、補充
二〇四〇	將校、下士官、兵、名補充
自 三〇、六、八 至 三〇、八、四	大隊長交代、陸軍大尉 松元 廣
三〇、〇、五	桂林全県附近の戦斗に参加
三二、五、一四	停戦詔書揮受
三二、五、二二	中華民國黃梅景孔橋鎮に移駐復員業務に従事
三二、六、四	内地販還のため駐留地出発
三二、六、二二	上海到着
三二、六、二二	上海出帆
三二、六、二二	佐世保港上陸
三二、六、二二	佐世保に於て復員式挙行大隊長 <small>(附)</small> 代理鳥居大尉以下六三七名除隊召集解除す
三二、六、二二	残務整理者陸軍大尉鳥居安高、陸軍中尉杉山正信、陸軍曹長山田繁雄、陸軍曹長荒井從位、陸軍軍曹太須喜賀久、陸軍伍長上向信秀、二日市復員本部に残務整理のため到着

独立歩兵第九十三大隊略歴

部隊長 陸軍少佐 平田友市

年月日	概要	要
昭一四・二・二四 一四・二・二二	編成完結状況 独立混成第十八旅団臨時縮成下令 縮成業務着手	
一四・二・三〇	中華民國江西省武寧縣武寧に於て 独立歩兵第九十三大隊編成完結	
	大隊長 陸軍歩兵少佐 福崎国道 部隊行動の概要	
自一四・二・二四 至一五・三・二二	武寧附近警備並に戦闘	
自一五・四・二七 至一五・七・二八	武昌附近の警備 宜昌作戦参加	
自一五・七・二八 至一五・八・三九	武昌附近の警備 湖北省當陽景當陽附近に移駐	
一五・九・一	同地附近の警備並に戦闘	
一六・七・三七	第二次遠安並に觀音寺北方地区の戦闘に於て感状授与せらる 軍令陸甲第九号に依り第九十八師臨時縮成	

58 番号五十一旅団



年月日	概要
昭三〇、〇、二五	兼結地湖北省黄梅票黄梅到着
二、五、四	兼結地出発
二、五、三	上海到着
三、六、八	上海出発
三、六、二五	仙崎上陸

(22)

0531

光五十八師団独立歩九十四大隊略歴

光五十八師団独立歩九十四大隊略歴

大隊長 陸軍中佐 一宮 基

年月日	概	要
昭一七、三、二八	軍令陸甲九八号独立歩兵九十四大隊編成下令	
一七、	編成業務着手	
一七、三、二八	中華民國湖北省天门泉天门編成完結	
	大隊長 陸軍中佐 一宮 基 以下二二一四名	
	(將校四一名、下士官一三二名、兵一一三六名)	
自一七、三、二八	才一次漢水河孟の警備並戦闘	
至一七、四、二五	汚陽作戦	
自一七、五、六	大隊長 陸軍中佐 前崎正雄	
至一七、六、二〇	沙東作戦	
自一七、六、二二	才三次漢水河孟の警備並戦闘	
至一九、一	補充 二五〇名	
自一九、四	補充 一一〇名	
至一九、五、一	長沙攻略作戦	
自一九、六、二〇	衡陽攻略作戦	
至一九、八、二二	補充 一二〇名	
自一九、七		

年月日	概	要
自 一九一八、九 至 一九一九、二〇	全果作戦	
自 一九一九、二一 至 一九二〇、三	桂柳作戦	
自 一九二〇、三 至 一九二〇、三	桂林攻路作戦	
自 一九二〇、三 至 一九二〇、三	桂林附近の警備	
自 一九二〇、三 至 一九二〇、三	中華民國広西省梧州果鹿塞鎮移駐	
自 一九二〇、三 至 一九二〇、三	中華民國広西省区寧果南寧移駐	
自 一九二〇、三 至 一九二〇、三	補充 九〇名	
自 一九二〇、三 至 一九二〇、三	大隊長、陸軍大尉 小林正道	
自 一九二〇、三 至 一九二〇、三	桂林全果附近の戦闘	
自 一九二〇、三 至 一九二〇、三	停戦協定	
自 一九二〇、三 至 一九二〇、三	復員下令	
自 一九二〇、三 至 一九二〇、三	停戦協定締結	
自 一九二〇、三 至 一九二〇、三	中華民國湖北省黄梅果黄梅移駐	
自 一九二〇、三 至 一九二〇、三	内地帰還の爲集結地出発	
自 一九二〇、三 至 一九二〇、三	復員完結	
自 一九二〇、三 至 一九二〇、三	上海港出発（一部）	
自 一九二〇、三 至 一九二〇、三	一部部隊として小田中尉指揮し仙崎港上陸	
自 一九二〇、三 至 一九二〇、三	除隊召來解除 五〇名	

本表は、昭和二十一年一月一日現在のものである。





才五十八師団独立歩兵才九十五大隊

大隊長 陸軍歩兵中佐 吉岡頼勝

年月日	概	要
昭一四二・三〇	軍令陸甲才 号独立歩兵才九十五大隊編成下令 編成兼着着手	
一四二・三〇	江西省安義縣小湖村に於て編成完結	
一五二・二二	大隊長陸軍歩兵中佐 吉岡頼勝以下將校 名 下士官七十八名 兵 名 湖北省漢川景漢川に移駐 主要参加戦斗並に警備也 宜昌作戦参加	
一五 六・一〇	湖北省当陽縣当陽附近警備	
一六 七・三三	大隊長 陸軍中佐 外園 進	
一六 七・二六	湖北省沔陽縣景皂市沔陽附近の整備	
一七 二・二八	軍令陸甲才八号に依り 独立歩兵才九十五大隊編成下令	
一七 二・四	編成着手	
一七 二・二六	湖北省沔陽縣景皂市に於て編成完結	
一七 二・二四	沔陽作戦参加	
一七 四・二五	才二次漢水河孟警備並に戦斗参加	
一七 五・二五		
一七 五・二四		
一七 五・二二		
一七 五・二一		

至自	一九四〇	湖北省鐘祥景黃家集附近の警備
至自	一九四一	大隊長 陸軍大佐 稻垣 陽
至自	一九五〇	長沙攻路作戦参加
至自	一九六三	衡陽攻路作戦参加
至自	一九八三	全果作戦参加
至自	一九九〇	桂柳作戦参加
至自	二〇〇〇	大隊長 陸軍大尉 岩下博一
至自	二〇〇一	停戦詔書発布
至自	二〇〇二	復員下令
至自	二〇〇三	停戦協定締結
至自	二〇〇五	集結地 中華民国湖北省黄梅景黄梅到着
至自	二〇〇四	内地帰還のため黄梅出発
至自	二〇〇九	上海出発
至自	二〇一六	博多港上陸

(27)

0536

歩兵才五十二旅団司令部略歴

旅団長 陸軍少将 古賀龍太郎

年月日	概	要
昭二七、三、二八	軍令陸甲才八号に依り上級幹部を除く外大部を混立混成才十八旅団より転入、司令部の編制を完結し沱城に位置す。	
自一七、三、八 至一七、四、三五 一七、五、一五	旅団長 陸軍少将 古賀龍太郎 武漢地区警備司令部として漢口に移駐し同地附近の警備に任す 才一次沔陽作戦に参加し敵才二八師に對し多大の損害を与えたり、我損害なし。	
自一七、一、二三 至一七、二、二三	武漢地区警備司令部の任を漢口兵站司令部に移譲し漢川泉漢川に移駐、師団の南地区隊司令部となり漢川沔陽(一部)泉警備に任す。	
自一八、一、一八 至一八、三、二五	昭和十七年徴収現役兵として二十八名到着せるを以て通信班に編入す。 江北疎滅作戦に参加し師団の左翼隊として軍の東及北正面を担任し前任務を続行す。	
自一八、五、三〇 至一八、三、三〇	我が損害なし 補充交代のため川又中尉以下十三名内地に帰還す。 常德疎滅作戦に支隊司令部として参加し才三十九師団長の指揮に入り湖南省松滋梁仁和坪一赤溪河線に陣地を占領し軍の右翼兵団左翼支隊として漢洋関方面より常德に向い転進中の敵約四ヶ師を完全に捕捉之を陣前に硬着せしめ軍主力	

外

才五十八師団司令部

昭十九、三、一一	各方面の作戦指導を有利且容易ならしめたり
自 一九、四、二〇	我損害員傷一
一九、二、三一	昭和十八年徴収現役兵として十三名到着せるを以て通信班に編入す
一九、四、三五	南地区隊司令部の任を才五野戦補充隊に移譲し
一九、五、一三	仙桃鎮出發天門果象鼻階に移駐し同地に在りて専ら訓練を実施したる後
	同地出發湘桂作戦に参加し其の尙湘陰、長沙、衡陽、桂林の堅陣を一挙に攻略
	引統き玄西省臨桂果两江郷福村に移駐し師団の西地区隊司令部となり義寧、百
	寿、臨桂（一部）永福（一部）果及融果の警備に任ず
	我損害戦死五、員傷三
一九、五、一	増加配属要員として北里伍長以下十八名転入す
一九、七、二六	補充兵十大名到着せるを以て通信班に編入す
二〇、一、二〇	古賀少将は才一ニ七師団長心得被仰付其の後任として陸軍大佐永田文雄発令せ
	らる
	補充兵七名到着せるを以て通信班に編入す
二〇、一、二九	古賀少将赴任のため出發す
二〇、二、二一	永田大佐着任す
二〇、三、二六	補充兵三十八名到着せるを以て通信班に編入す
二〇、四、三	臨桂果两江郷下庄に移駐し前任務を続行す
二〇、五、三〇	義寧地区（義寧果）警備を才三十四師団歩兵才二一八聯隊才一大隊に移譲し、

年月日	概要
昭五、五、二七	新に南地区隊の指揮に命ぜられ中渡掘江果の警備を附加せられたるを以て永福果羅網郷下村に移駐し前任務を続行す
二〇、五、三一	昭和十九年倭集現役兵十四名、補充兵一名到着せるを以て通信班に編入す
二〇、六、二二	本土兵備要員として稲田少将以下三名転出、出發す
二〇、七、二	軍の転進に伴い転進部隊区処のため下村出發中渡果黄冕街に前進し諸隊の転進を区処したる後永福次で下村に転進し古化——永福線に於て追尾中の敵を拒止し軍主力の転進を容易ならしめたる後一挙に潭下坪に転進同地附近師団主力の反響作戦に参加し敵が五師の主力を完全に殲滅其ノ前進企画を挫折せしむると共に更に全果に転進し軍主力の同地附近反響作戦に師団の重点司令部として参加し自沙北方地区に於て敗退する敵を捕捉し之に甚大なる損害を与え多大の戦果を収めたり我が損害なし
二〇、八、一四	停戦に因する詔書渙発せられたるを以て戦斗を中止し黄梅地区集結のため東安——沙灘橋——衡陽——長沙——咸寧——九江を経て
二〇、一〇、二	湖北省黄梅果河南郷江家湾に集結し爾後復員を準備す
二二、五、二	江家湾出發
二二、五、一六	上海到着
二二、六、二	内地帰還のため上海港出發
二二、六、二〇	博多港上陸

(21)

0539

独立歩兵第九十六大隊略歴

独立歩兵第九十六大隊本部調整

大隊長 陸軍中佐 有 蘭 善 行

年 月 日	概 要
昭一七、三、二八	<p>中華民國湖北省鐘祥泉黃家集                      將校四五名、准士官一五名、下士官一三四名、兵一〇八〇名、軍服一名                      計一二七五名、馬一一二頭</p>
一七、三、二八	<p>軍令陸甲歩八号に依り独立混成歩十八旅団独立歩兵第九十六大隊を基幹とし大隊の編成を完結、湖北省鐘祥泉黃家集に位置し黃家集地区の警備に任ず</p>
至自 一七、七、二〇 一七、七、二六	<p>大隊長 陸軍中佐 有蘭善行                      師団北正面の戦斗に参加し敵約一ヶ団を青峯山に於て捕捉殲滅す</p>
一七、八、一五	<p>大隊長有蘭中佐西部軍司令部々員に補せられ赴任の爲出發す</p>
一七、八、一九	<p>大隊長 陸軍中佐 西島 剛 着任す</p>
一七、八、三〇	<p>補充兵六十五名到着せるを以て各中隊に編入す</p>
至自 一八、一、二四 一八、一、三〇	<p>信陽附近の警備に任ず</p>
一八、一、二六	<p>歩一中隊長井上中尉歩十三聯隊補充隊中隊長に補せられ赴任の爲出發す</p>
至自 一八、一、三五 一八、三、三一	<p>昭和十七年秋集現役兵として二百八十五名到着せるを以て各中隊に編入す</p>
一八、四、三〇	<p>大山坡揚家河附近の戦斗並に江北殲滅作戦に参加す                      江南殲滅作戦及び二次南部大洪山附近の戦斗に参加す</p>

年月日	概	要
昭一八、六、六	行内中尉以下五名内地帰還のため出發す	
自一八、七、一 至一八、七、三	常徳職減作戦に参加す	
一八、七、三〇	龍造寺見習士官以下三名着任す	
一八、八、三三	大隊長西島中佐南方方面部隊長に補せられ赴任のため出發す	
一八、八、三六	大隊長陸軍中佐中西福松着任す	
一八、九、三〇	加藤見習士官以下十名着任す	
一八、〇、一四	細見見習士官以下八名着任す	
自一九、一、一 至一九、四、一五	志城附近の警備に任す	
一九、一、一五	本土航空監督官として小村中尉以下八名赴任のため出發す	
一九、三、一一	昭和十八年徵集現役兵として二百十二名到着せるを以て各中隊に編入す	
自一九、四、一五 至一九、三、三二	志城地区警備隊の任を才十野戦補充隊才ニ反才三大隊に移譲し相桂作戦参加のため志城出發刑内栗沙陽鎮附近にありて専ら訓練を實施したる後	
一九、五、一一	同地出發相桂作戦に参加し其の間菅田衛陽桂林の堅陣を一挙に攻略引続き広西	
一九、五、二二	省融果長安鎮に駐し長安鎮地区警備隊となり同地附近の警備に任す	
一九、五、二二	韃重補充兵一三五名沙洋鎮高橋に於て到着せるを以て各中隊に編入す	
一九、七、三六	補充兵一二八名湖南省衡山果白隘内に於て到着せるを以て各中隊に編入す	
二〇、一、三六	補充兵百八十二名広西省融果長安鎮に於て到着せるを以て各中隊に編入す	
二〇、三、一五	補充兵九十四名長安鎮に於て到着せるを以て各中隊に編入す	

外 才五十八師團司令部



昭 二〇、五、二 自 二〇、九、一九 至 二〇、五、二七 二〇、七、二六	昭 二〇、七、二九 二〇、七、二七 同 日 二〇、七、二二 二〇、七、一七 二〇、七、一八 二〇、八、一四	<p>           大隊長中西大佐歩兵学校附に補せられ赴任のため出発す。            大隊長陸軍大尉 立川惣四郎着任す。            長安鎮警備を撤収し軍命に基き糧秣輸送のため敵歩百八十八師及長融羅自衛隊を            撃破し融江を柳城に向い南下。歩百十四師隊長の指揮下に入り柳城柳州に於て            追尾の敵を拒止軍主力の反転を容易ならしめたる後羅金坪に転進す。            高木中尉以下二十九名本土兵備要員として転出出発す。            玄瀨軍医中尉歩五十八師団野戦病院より転入到着す。            昭和十九年徵集現役兵として六十五名到着せるを以て各中隊に編入す。            補充員十六名到着したるを以て各中隊に編入す。            義寧附近に進出する敵拒止の為羅金坪より義寧三転進野口聯隊長の指揮下に入り            リ大反毒を敢行引続き岩山坪を敵側背に進出一拳に之を突破し敵歩五師を殲滅            し。大隊長陸軍大尉遺命を奉し敵中を突破し敵歩五師を殲滅し            大隊長立川大尉壮烈なる戦死を遂げたるも宮里大尉遺命を奉じ敵中を突破し            潭下坪に転進。爾後旅団長の指揮下に入り同地附近師団主力の反毒作戦に参加            完全に其の前進企画を挫折せしむると共に更に全果に転進し同地附近の反毒作            戦に参加し白沙北方地区に於て敗退する敵を捕捉し之を甚大なる損害を与へた            り。            停戦に因する詔書換発せられたるを以て戦いを中止し黄梅地区集結のため東安            ー沙灘橋ー衡陽ー長沙ー咸寧ー九江を経て         </p>
--	---	---

9月

年月日	概	要
昭三〇、五、二	湖北省黄梅县化南乡张家河に集結し爾後復員を準備す	
二一、五、二	集結地张家河出発	
二一、五、天	上海到着	
	内地帰還の為上海港出帆	
	港上陸	
	復員を完了す	

独立歩兵第百六六大隊略歴

独立歩兵第百六六大隊本部調整

年月日	概	要
昭一七、三、二五	熊本県熊本市、編成完結	將校四四名 准士官三名 下士官 名 兵 名
一七、三、三〇	編成完結より	返心營に在り教育勤務
一七、三、三九	中国派遣のため熊本出発	漢口に到着
一七、四、一三	以降湖北省漢陽県沙湖及沔陽県峯口地区の警備此の間沔陽南部大洪山及常徳附近の各戦斗に参加するの外討伐戦三回並に治安肅正に専念す	
一九、五、一	以降湘桂作戦に於ては長沙、衡陽、全県、桂林附近の各戦斗に参加す。特に長沙攻路戦に於て軍司令官より感状を授与せらる	
二〇、一、一	より桂林地区の警備に方り、此の間湘江、四排圩及平山圩、柳城附近の討伐に参加し治安の確立に努む	
二〇、五、二七	より桂林全県附近の戦斗に参加中	
二〇、八、一五	広西省全県黄沙舖附近に於て停戦協定締結せらる	
二〇、一〇、一五	湖北省黄梅県孔墟鎮附近に於て復員準備の業務に従事	

0544



独立歩兵中隊百七十六大隊隊歴

大隊長 陸軍大佐 園田 良夫

年月日	概	要
昭二七、三、三二	軍令陸甲中八号に依り下士官の一部を除く外大部を歩兵中二十三聯隊補充隊より転入大隊の編成を完結し三月二十九日屯営を出發す。	大隊長、陸軍大佐 園田 良夫
一七、四、八	揚子に上陸し四月十八日より漢口に在りて同地附近の警備に任ず	
自一七、四、二五 至一七、五、一五	中一次汚陽作戦に参加す。	
一七、五、一	武漢地区警備司令部の任を漢口兵站司令部に移譲し信陽に移駐同地附近の警備に任ず	
一八、一、一八	昭和十七年徵集現役兵一五〇名到着せるを以て各中隊に編入す	
一八、一、二六	信陽警備の任を中三師團に移譲し	
一八、四、一	中二回漢口附近の警備に任ず	
一九、三、二二	昭和十八年徴収現役兵百六十名到着せるに付各中隊に編入す	
一九、三、一〇	大隊長園田大佐台湾歩兵中四十七聯隊補充隊長として転出後任として陸軍少佐 架嶋長作発令せらる。	
一九、三、一〇	赴任	
自一九、四、二五 至一九、三、三〇	漢口附近の警備の任を中五野戦補充隊に移譲し天内渠梓子湾に移駐し同地に在りて専ら訓練を実施したる後	

年月日	概要
昭五、五、一〇	内地出發、湘桂、桂柳、桂林攻略作戰に参加し引続き広西省桂林に移駐し専ら訓練に任ず。
二〇、三、二六	補充員藤原中尉以下二百四十名到着したるを以て各中隊に編入す。
二〇、六、三三	本土兵備要員として相模大尉以下五十五名転出出發す。
二〇、七、二	軍の転進に伴い転進部隊援護の任を受け桂林出發潭下下圩に転進師団主力の反毒作戦に参加す。
二〇、八、一四	停戦に関する詔書渙発せられたるを以て戦斗を中止し黄梅地区集結のため東京—衡陽—長沙—九江を経て
二〇、一〇、二	湖北省黄梅、梅、河、南、鄉、南、州、口に集結し爾後内地に在りて復員を準備す。
二一、五、二一	南州口出發
二一、五、二七	上海到着
二一、五、三九	内地帰還のため上海出發
二一、六、八	佐世保港上陸
〃	復員式挙行

内

独立歩兵才百八大隊略歴

独立歩兵才百八大隊本部副長

部隊長 陸軍中佐 木村行雄

年月日	概	要
昭一七、三、三五	鹿兒島 縮成完結	
自一七、四、二二	將校四五名 進士官一四名 下士官一三四名 兵一〇八五名 單座 名	
自一七、四、二二	計一二七九名	
自一七、四、二二	歴代部隊長	
自一七、四、二二	陸軍中佐 木村 行雄 27	
自一七、四、二二	陸軍中佐 玄瀬 武夫 28	
自一七、四、二二	陸軍大尉 山田善之輔 符22	
自一七、三、二二	軍令陸甲才八号に依り臨時縮成下令	
自一七、三、二九	中支派遣の左め内司港出帆	
自一七、四、三	上海上陸	
自一七、四、一七	歩兵才一三八聯隊才一大隊と漢川地区警備交代同地附近警備、其の向沔陽作戦	
自一七、四、二四	参加	
自一七、五、一五	の外警備地甫正討伐三回	
自一七、五、一六	漢川沔陽地区附近の警備、其の向江北嶽滅作戦参加	
自一七、五、一六	の外警備地区甫正討伐七回	

年月日	概	要
自昭一八、三、六 至一九、四、二四	湖北果通海口地区附近警備其の尙常德殲滅作戰参加	
自一八、〇、二一 至一八、三、三〇	の外警備地区南正討伐五回	
自一九、四、二五 至一九、一、三〇	湘桂作戰参加へ湘陰附近の戦斗長沙附近の戦斗衡陽附近の戦斗桂林附近の戦斗	
自二〇、一、三〇 至停戦詔書発布	広西省百寿果古化附近警備其の尙警備地区内南正討伐五回桂林全果附近の戦斗参加	
一八、二	湖北省沔北果通海口に於て昭和十八年徵集現役兵	名受領未到着 名
一九、	湖北省沔北果通海口に於て昭和十八年徵集現役兵	名受領未到着 名
一九、五	湖北省江陸果桐壁湾に於て才十野戦補充隊より補充員	名受領 名
一九、五	湖北省江陸果桐壁湾に於て増加配属人員(行李班要員)	名受領未到着 名
一九、七	湖南省長沙果長沙に於て補充員	名受領
二〇、二	広西省百寿果古化に於て補充員三一六名受領未到着七三名	
一九、三	才三号部隊要員として岩崎大尉以下	名転出
二〇、五	広西省臨時桂林に於て昭和十九年徵集現役兵一三八名受領未到着一三九名	
二〇、四、〇	独立歩兵才百一七大隊要員として岩元大尉以下	名転出
二〇、四、二〇	独立警備歩兵才十一大隊要員として鷗沼大尉以下	名転出
二〇、一、三〇	才五十八師田司令部中馬少尉以下三十五名転出	
二〇、九、七	才二船輸送司令部漢口支部へ荒木軍曹以下	名転出
二〇、六、	本土兵備要員として派遣者新内中尉以下三三名才一一八師田司令部へ転属	

10 外



昭二、九、一	未転居者一名
二〇、八、一四	広西省全県に於て停戦詔書奉載
二〇、八、一四	広西省九江に於て武装解除
自 二〇、五、二二	江省黄梅新鎮村に於て復員業務
二一、五、二二	江省九江出發
二一、五、一四	上海上陸到着
二一、五、二九	上海出帆
二一、六、八	博多港上陸

(41)

0550

才五十八師團才五十八師團工兵隊略歴

部隊長 陸軍少佐 高 重 道

年月日	概	要
昭一七、三、一 一七、三、一 一七、三、一	陸軍少佐高重道に依り才五十八師團工兵隊縮成下令 縮成業務着手	陸軍少佐高重道に依り才五十八師團工兵隊縮成下令 縮成業務着手
一七、三、一	中華民國湖北省鐘祥縣守陸に於て縮成完結	中華民國湖北省鐘祥縣守陸に於て縮成完結
一七、三、一	部隊長陸軍少佐高重道以下將校九名、准士官二名、下士官三名、兵一四六名 計一七八名	部隊長陸軍少佐高重道以下將校九名、准士官二名、下士官三名、兵一四六名 計一七八名
至自 一七、三、一 一七、三、一	同地附近警備並戰鬥	同地附近警備並戰鬥
至自 一七、三、一 一七、三、一	陸軍軍曹野向正以下八九名、和十六年徵集現役六一名、補充兵三八名、補充員 として到着す	陸軍軍曹野向正以下八九名、和十六年徵集現役六一名、補充兵三八名、補充員 として到着す
至自 一七、七、一四 一七、七、一四	中華民國湖北省沔陽縣長江埠に移駐 沔陽作戰	中華民國湖北省沔陽縣長江埠に移駐 沔陽作戰
至自 一七、六、三〇 一七、六、三〇	陸軍軍曹野向正以下三名、交代帰還	陸軍軍曹野向正以下三名、交代帰還
至自 一七、七、二 一七、七、二	陸軍兵長中山勇以下三名、交代帰還	陸軍兵長中山勇以下三名、交代帰還
至自 一七、九、一五 一七、九、一五	部隊長陸軍大尉、鈴木孝夫	部隊長陸軍大尉、鈴木孝夫
至自 一七、九、三一 一七、九、三一	才二次漢水河孟警備並戰鬥並江北礮滅作戰	才二次漢水河孟警備並戰鬥並江北礮滅作戰
至自 一七、三、二 一七、三、二	陸軍上等兵桑畑久夫以下三十名工兵才六聯隊に転属す	陸軍上等兵桑畑久夫以下三十名工兵才六聯隊に転属す

昭 一七、一、三三	陸軍二等兵米田實男以下独立工兵才五十三大隊より転属到着す。
自 一八、一、一八	陸軍兵科見習士官東条敏郎以下三二名昭和十七年徴集現役補充員として到着
至 一八、四、三〇	江南殲滅作戦並才二次南部大洪山附帯戦斗
自 一八、七、一	死歿人員(兵四)
一八、八、一六	陸軍中尉平野定政以下十六名、交代帰還
自 一八、三、三一	陸軍兵長杉浦春男以下六名、交代帰還
至 一九、一、三〇	常德殲滅作戦
自 一九、三、二	死歿人員(兵一)
一九、三、一	才三次漢水河孟の警備並戦斗
自 一九、四、三〇	昭和十八年徴集現役兵陸軍二等兵白川守男以下二九名到着す。
一九、三、一	縮成定員を輜重兵科下士官一、輜重兵一〇を増加せらる。
自 一九、五、三一	湘桂作戦参加のため現駐地出発
一九、五、三一	湘桂作戦
自 一九、七、三一	死歿人員(将校一、下士官四、兵六七)
一九、七、三一	陸軍伍長坂東敷以下四一名到着す。
自 二〇、一、三一	桂林附近の警備
自 二〇、五、三六	陸軍二等兵樋口弘以下一四二名、工兵才十九聯隊より補充員として到着す。
二〇、三、一	中華民國広西省陽朔県福利廬に移駐す。
自 二〇、四、五	桂林、全県附近の戦斗
自 二〇、五、三六	
自 二〇、八、一四	

年月日	概要
昭三〇、五、三〇	死没人員(兵一) 陸軍軍曹上嶋勝馬以下八七名(昭和十九年徵集現役兵六〇名 補充兵二五名) 到着
二〇、八、一四	停戦詔書發布
二〇、八、一八	復員下令
二〇、九、三	停戦協定締結
自 昭三〇、八、一五 至 昭三〇、〇、一四	復員のたため集結地に向う行軍
二〇、〇、一五	集結地中華民国湖北省黄梅県孔灘鎮吳家河に到着
二一、五、一四	内地帰還のたため集結地出發
二一、五、二五	上海到着
二一、六、一六	上海港出發
二一、六、三九	死没人員(一二五名) 仙崎港上陸

外

才五十八師団通信隊略歴

部隊長 陸軍少佐 日 高 明 吉

年月日	概	要
昭一七、三、二八	編成	
	部隊長官氏名	
一七、三、二八	陸軍少佐 日 高 明 吉	
一七、八、一	陸軍少佐 福 田 清 市	
一八、八、二	陸軍少佐 狩 谷 博 次 郎	
	軍令陸甲才八号に依り独立混成才十八旅団通信隊を現地復帰し人員兵器の大部を現地他隊より、一部を内地より充足し	
	中華民国湖北省沔陽縣沔陽に編成を完結す	
	才一次漢水河孟の警備並に戦斗	
	(沔陽作戦)	
	才二次漢水河孟の警備並に戦斗	
	南部大洪山附近の作戦	
	大山城並に場家河附近の戦斗	
	江北嶺作戦	
	江南嶺作戦並に才二次南部大洪山附近の作戦	



才五十八師団輜重隊略歴

部隊長 陸軍中佐 佃 昇

年月日	概 要
昭一七、二	日軍令陸甲才八号に依り才五十八師団輜重隊縮成下令、引続き縮成業務着手
一七、三、三	中華民國湖北省沔陽縣沔城に於て縮成完結
一七、三、三	縮成人馬 輜重隊長以下將校二十二名、准士官、下士官六十三名、兵三八七名 馬匹二〇八頭
一七、三、三	才一次漢水河孟の警備並戦斗
一七、四、二	沔陽作戦参加、参加時の死没人員（下士官一名、兵二名）
一七、五、一	才一次漢水河孟の警備並戦斗
一七、九、一	才二次漢水河孟の警備並江北殲滅作戦参加
一七、三、一〇	昭和十七年徵集現役兵一三四名入隊
一八、三、三	輜重隊長陸軍少佐、和田喜代治
一八、四、一	江南殲滅作戦並才二次南部大洪山附近作戦参加
一八、七、一	常德殲滅作戦参加、参加時死没人員（兵六名）
一八、三、一〇	昭和十八年徵集現役兵六八名入隊
一九、一、一	才三次漢水河孟の警備並に戦斗
一九、三、九	才三十四師団輜重隊三〇〇名転属

年月日	概	要
昭一九、三、一四	補充要員として二六〇名志召入隊	
一九、五、一	湘桂作戦参加、参加時の死没人員（将校一名、下士官七名、兵二四八名）	
一九、六、二一	補充要員として下士官三名、兵一八五名志召	
一九、八、二四	補充要員として下士官一名、兵一六九名志召	
一九、九、一五	昭和十九年敵集現後兵五二名入隊	
二〇、一、一	桂林附近の警備	
二〇、五、二七	桂林全県附近の戦斗参加時の死没人員（兵七名）	
二〇、八、一四	停戦詔書發布於中華民國広西省全県黄沙舖	
二〇、八、二五	復員のたの集結地に向い行軍並に輸送業務に従事	
二〇、八、二五	復員下令	
二〇、九、二	停戦協定締結	
二〇、一〇、一四	集結地湖北省黄梅県黄梅到着、爾後同地附近に在りて復員業務に従事	
二一、五、一四	内地帰還のたの集結地出発	
二一、五、二五	上海到着後帰還準備に従事	
二一、六、七	上海港出帆	
二一、六、一四	仙崎港上陸	

12 外

(48)

0557